

藤沢

2016年6月1日

第265号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・藤沢エコネット2015年度総会報告
- ・学習会「大気汚染と健康への影響」
- ・気象情報
- ・放射線測定値

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

パリ協定はどのようにして採択されたのか

2015年12月に行われたCOP21（気候変動枠組条約第21回締約国会議）で、画期的な国際合意、パリ協定、が採択された。産業革命時からの気温上昇を2℃以内、できれば1.5℃以内、に抑えようというものである。今世紀中に化石燃料依存からの脱却を目指している。パリ協定の意義は、温室効果ガスの削減を、先進国と途上国の間に差異を設けつつ、すべての国に義務づけていることにある。

国際合意が成立した背景には、国際情勢の変化がある。かつては、一方的な削減義務を先進国に迫る途上国と削減を小さくしたい先進国、という2極化した単純な構図のもとで、利害対立が先鋭化し、交渉はしばしば不調に終わった。しかし、中国やインドのような大量の温室効果ガスを排出する新興国の台頭によって、途上国が多様化し、交渉のプレイヤーが増加し、複雑化してきた。

また、脱炭素に前向きなオバマ以後が見えてこない。他方、太陽光発電のコストが、火力発電のコストと競争的なレベルになってきた。脱化石燃料の経済合理性が見えてきた。決着のタイミングという空気が強まった。

パリ合意を大きく後押ししたのは、海面上昇によって国土を失いかねない島嶼国の危機感と世界的な異常気象の頻発である。大型台風・サイクロン・ハリケーンの襲来、集中豪雨、大洪水、大干ばつ、大きな山火事が、世界各地で猛威を振っている。これらは、地球温暖化と関連している可能性が高い。

日本はどうなっているか。CO₂削減の政府目標は低い。再生可能エネルギー利用は、世界に後れをとっている。一方、火力発電所建設計画が目白押しである。問題は、政府が脱炭素推進に及び腰なことにある。他方、自然災害が次々とやってくる。

腰を据えて日本のエネルギーの未来を考えなければならない時機が、来たようである。

川崎 健（東北大学名誉教授）



アジサイ（遠藤あじさいロードで）

藤沢エコネット2015年度活動報告

2016. 5. 21

2016年3月および4月は、東日本大震災福島第1原発事故から5年、チェルノブイリ原発事故から30年の節目にあたる。福島そしてチェルノブイリさえも、いまだに放射能の被害から逃れられず、健康への影響を訴えている。福島県の子どもの甲状腺ガンは166人に上り、増加の流れは止まらない。また、いまだに約10万人も避難生活を続けている。親子の保養活動が求められ、年2回のリフレッシュ活動の支援を続け、8回目となった。空間放射線量や土壌の線量調べ、乳歯保存活動をおこなった。

川内原発と高浜原発が新基準のもとに再稼働したが、大津地裁の運転差し止めの仮処分で老朽化した高浜原発は3月11日に冷温停止した。川内原発2基のみが4月の熊本地震に関わらず稼働している。

昨年COP21で気温上昇2度未満に抑えるため、今世紀後半は温室効果ガス排出を実質ゼロとする画期的なパリ協定が合意された。4月からは電力自由化が始まり、地産地消エネルギー藤沢市民の会が昨年発足、地産地消再生エネルギー発電を目指し活動を続けている。

藤沢の空気を考える会で、大気汚染(NO2)調べを年2回行った結果、平均は環境基準をクリアした。喘息が年々増加しているのが心配である。NO2の環境基準やPM2.5などに問題があると思われる。

(1) 脱原発の活動

◆放射能測定

身近な公園や建物などの空間放射線量を測定し、ニュースに掲載した。海の砂や海水なども藤沢市HPから転載した。土壌調べに取り組み始めた。

空間放射線量は0.05マイクロシーベルト/時間前後で雨後に高くなる傾向である。ゆずなど庭の果実はゼロベクレルだが、土壌には残留しているので気を付ける必要がある。

◆6月学習会「増え続ける汚染水―海と魚の放射能汚染」。講師：川崎健氏（東北大名誉教授）

放射能汚染は外洋を通じ世界に広がっている。食物の含有許容限度は100Bq/kg。魚の汚染は低くなっているが、底の方に住む魚や淡水魚は高めである。

◆9月学習会「増え続ける汚染水―海と魚の放射能汚染PART2」。講師：山崎久隆氏(たんぽぽ舎)

東電福島第1原発の事故処理全体の話。河川より湖沼の魚の方が汚染高い。生物濃縮度は海水1:魚100 海水1:タコ50など。1日に10ベクレル食べ続けると心臓疾患などの影響が出る。

◆保養活動

夏と春、年2回福島の子どもたちとともに・湘南の会が行った。「いのちかながわ」保養団体連絡会に参加し、国への支援要請をおこなった。

◆「小さき声のカノン」上映会開催

会員であった故小泉修吉プロデューサーの遺作「小さき声のカノン」を、9月に湘南台文化シアターで上映、鎌仲監督トークを行った。520人の参加で大成功。福島、チェルノブイリ等被ばく地の子どもの生活を描いた作品で、約1か月の保養をベラルーシでは今もなお続け、体外に放射能を排出する効果がある。

(2) 地球温暖化防止活動

地産地消エネルギー藤沢市民の会を農業者、経験者など多彩な人たちと共に昨年立ち上げ、毎月会合を開き、ふじさわ環境フェアに展示参加した。地産地消エネルギーの啓発とソーラーシェアリングや市民発電所の建設を目指して活動している。

(3) 大気保全活動

年2回のNO2大気汚染調査、年1回のぜん息調べをおこなった。北部方面の喘息学童が多い。

◆11月21日のふじさわ環境フェアに企画運営委員として参加し、大気問題、地球温暖化問題など展示し、他団体と交流した。

◆大気汚染調査では、夏冬ともに平均は環境基準をクリアしたが、用田周辺や大庭隧道など車が多く、依然として大気汚染は深刻である。旧基準0.02ppmをクリアしていないため、ぜん息は減少せず、増加傾向である。基準を元に戻すことが求められる。

(4) バイオハザード予防活動

武田薬品工業の社長が外国人クリストフ・ウエーバー氏になり、湘南研究所の部長も3割が外国人となるなど経営が変わり、利益が下がっている。武田問題対策連絡会では、安全体制がどうなったか、昨年武田薬品と話し合いを行った。詳細は不明だが、新人教育や英語で各部屋に注意書きする等しているとの事だった。昨年発表された京大と武田薬品のIPS細胞共同研究は50人50人の100人規模でこの4月から本格的に行うという。

武田問題対策連絡会の小林代表が代わり、3人の共同代表制になった。活動も周辺ウォッチングを重視する。

(5) 市内環境情報交換活動

環境情報交換のためにニュースを400部余り発行し、ホームページを開設している。ニュースは毎月創刊以来休みなく、今年度251号(2015.4)から262号(2016.3)まで発行した。寄稿を募集し、なるべくいろいろな人に書いていただくよう、配慮している。HPはリニューアルし、ニュース前月号までを掲載している。

2016年度 活動計画

「人間が住むにふさわしい環境都市藤沢の実現」にむけて、藤沢市内外で活動する市民の活動と情報の交流及び共通する課題での共同の場をつくる活動を行う。

- ・例会・事務局会議 一毎月1回
- ・ニュース発行 一毎月1回（263号～275号）
- ・ホームページ更新 一環境情報発信
- ・環境講座開催 一環境問題を取りあげて開催
- ・共通する課題での活動

脱原発活動 平和問題 開発問題など

部会活動 ○大気部会 ○温暖化防止部会
○環境影響部会 ○ごみ問題部会○原発問題部会
ふじさわ環境フェアへの取り組み—藤沢市環境フェアの企画委員会メンバーとして取り組む。

その他 環境に関する政策提言

シンポジウム開催など

藤沢の大気汚染と健康

—PM2.5 汚染と地域健康格差—

藤沢市の子どもの喘息が高いことから、その原因と対策を探ろうと、5月19日、新六会市民センターで、学習会が開かれました。藤沢エコネット主催で、講師は藤沢診療所所長の野本哲夫医師をはじめ、3人。

はじめに野本医師は「大気汚染と健康」と題して、地球規模での大気汚染の悪化が進む中で、
①微小粒子状物質 PM2.5 の汚染の現状、
②ディーゼル排気ガスと喘息との因果関係の研究、
③中国のがん急増の原因としての大気汚染研究の最新報告の紹介をしました。特に空気清浄機の真っ黒なフィルターの実物や身近な地域のスモック*の写真を見せて、幹線道路周辺では窓はあけないことも大切と強調しました。

藤沢ごみ問題市民の会の小林麻須男氏は「藤沢のごみ焼却の現状と課題」と題して、6年後に稼働予定の北部ごみ焼却炉2号炉の建設計画について報告しました。問題点として、①家庭系ごみ量に比べて事業系ごみ量が増えていること、②建設の契約方式がかつて失敗した肥化センターと同じ民間方式であること、③焼却灰の熔融化のために毎年6億円近くを支出していること、④国がごみ焼却施設の熱利用率が高いほど補助金交付率を上げて焼却を誘導していることなどを指摘しました。

藤沢市議の山内幹郎氏は、統計学的な検討から
①喘息有症率が北部の特定の地区に高く、年々高くなってきていること、②また死亡率を年齢補正した標準化死亡比 SMR がこれも北部の特定の地区に高いこと、③学会で焼却施設周辺住民と喘息の相関が多く指摘されていること、④こうした中で、焼却施設を北部に増やすことは無理があり、住民の納得ができるような説明が必要であることを訴えました。

質疑・討論では、杉花粉・排気ガスと喘息との関係、バイオ発酵方式のごみ処理の話、他市での学校保健での喘息調査との比較、汚染源としての道路や焼却施設・セメント工場の話、原因究明のための市のデータの情報公開の話など、熱心な討議が交わされました。

2015年度 決算 (2015.4 ~2016.3)

収入の部

単位:円

科目	決算額	備考	16年度 予算額
繰り越し	69,194		86,010
会費	185,000		110,000
寄付収入	15,000	寄付	20,000
事業収入	20,500	講座参加費	13,990
合計	289,694		230,000

支出の部

科目	決算額	備考	16年度 予算額
講師謝礼	32,000	2回	40,000
会場費	5,200	ロッカー 会議室	15,000
印刷費	29,515	印刷 用紙 コピー	43,000
通信費	125,316	切手メール便等	120,000
消耗品	10,623	封筒 ラベルシート	10,000
雑費	1,030	不戦の誓い広告等	2,000
次期繰越	86,010		
合計	289,694		230,000

ジェット気流にまつわる話し

つくば市の南部、館野に気象庁館野高層気象台がある。私が最初に高層気象台を訪問したのは、1975年ころだから今から約40年前である。田舎のバス停から、地図を頼りに雑木林の中を歩いて館野高層気象台へ向かった。その道は笹の茂みを切り開いた感じで幅は狭かったが、しばらく進むと立派な木造の建物が見えてきた。間違っていなかったことにほっとして、地図をたたみ、建物の玄関に入った。

館野高層気象台は日本でもっとも歴史の古い気象台の一つで、上層大気の観測所で観測データは全球規模の気象解析に利用されていて、現在では国際的に重要な役割を担っている。訪問の目的は、日々の提示観測がどのような方法で行われデータが解析されているか、その実態を調査するためだった。

館野高層気象台が建設されたのは1920年（大正9年）で、それ以前から上空の気象を知ろうとする努力が払われていた。遡ること18年、1902年（明治35年）に、山階宮菊麿王が私費を投じて建設した筑波山気象観測が上層大気の観測のルーツと言える。ちなみに、富士山頂で本格的な気象観測が始まったのは1932年（昭和7年）のことである。

高層気象観測の歴史を見ると、ちょうど筑波山観測所の観測が始まったと同年に、フランス人のド・ポールが気球を使って始めて高層気象観測を行った。彼はこの観測結果をもとにして成層圏を発見した。この点からわかるように、高層気象観測の面で日本はヨーロッパに少し遅れをとっていた。（つづく）

林 陽生（NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア理事長）

放射能測定値

(HORIBA Radi) 単位(μSv/h)

5月中に測定(地上50cm)

白旗義経首洗い井戸	0.054
白旗交差点道路	0.060
遠藤あじさいロード	0.037
御所見市民センター前	0.055



ECNET INFORMATION

地産地消エネルギー—藤沢市民の会講演・総会

日時：6月12日(土) 13:00

講師 竹村英明氏(市民電力連絡会)

場所：ミナパーク(藤沢商工会議所) 参加費500円

連絡先：宮地 090-6186-0452

9条かながわ大集会 in 茅ヶ崎

講演 小森陽一さん 鎌田慧さん

分科会は憲法 選挙 原発など8つ

平塚大空襲パネル展示も!

6月4日(土) 分科会 9:30- 全体会 13:00-

茅ヶ崎市民文化会館 参加費大人1000. 学500

主催/問合わせ：実行委員会 090-7949-9854

TPPの動向と私たちの課題

講師 高橋巖さん(日本大学教授)

6月12日(日) 14:00-

藤沢名店ビル6F C 資料代500円

主催：湘南学習会議・鎌倉返子学習会議

連絡先 TEL 0466-44-3863



藤沢エコネットから

◆総会において会費の引き下げを決定しました
今年もよろしくお願いいたします

◆会員募集=年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行(9900) 店番(029)

当座預金 0046501 ｼﾞｬﾝｸﾞﾙｲｺﾈｯﾄ

◆事務局会議 6月8日(金) 14:00~

市民活動推進センター

《編集後記》4月に開園し8月中旬まで開く、遠藤まほろばの里「藤沢えびねやまゆり園」を5月に訪れた。慶応大学から徒歩6分、NPOが管理し、約130種の山野草を鑑賞できる。エビネは終り、ヤマツツジや錨の花の形をしたイカリソウ、花の先端が釣り糸のように垂れ下がった少々グロテスクなウラシマソウなど、竹林の中で楽しんだ。夏はヤマユリが咲く(A)